

令和7年度赤江まつばら支援学校 学校評価アンケート（職員）

令和7年度赤江まつばら支援学校 学校評価アンケート（保護者）

評価指標	職員評価					評価指標	評価					学校自己評価	学校関係者評価		
	A	B	C	D	E		A	B	C	D	E				
1 安全・安心な学校を目指した危機管理体制の強化						1 安全・安心な学校を目指した危機管理体制の強化									
① 危機管理マニュアルの内容を理解し、緊急時に適切に対応できている。	13%	78%	9%	0%	0%	① 学校が防災や不審者対応などの安全対策をしっかりと行っている。	30%	50%	0%	0%	2%	A	・教職員、保護者共に高い評価を得た。 ・学校安全に関すること、避難訓練などを含めた安全な学校づくりに十分取り組んでいる。	B	・避難のために学校を離れる計画としているので、備蓄品の保管場所と避難場所の関係をさらに検討しておく必要がある。
② 避難訓練や安全点検が、实际的で効果的に実施できている。	22%	72%	6%	0%	0%	② 保護者への安全情報の伝達が適切に行われている。	50%	30%	10%	0%	10%				
③ 教職員全体で、安全・安心な学校づくりに取り組んでいる。	19%	72%	6%	3%	0%	③ 学校全体で安全・安心な環境づくりに取り組んでいる。	40%	40%	0%	0%	20%				
2 病弱教育校としての専門的指導力と自立活動の指導の充実						2 病弱教育校としての専門的指導力と自立活動の充実									
④ 病弱教育に関する専門的知識や指導法を共有しながら指導できている。	9%	72%	16%	0%	3%	④ 教職員が児童生徒の病状や特性を理解し、適切に支援している。	60%	20%	10%	0%	10%	A	・教職員、保護者共にある程度の評価を得た。 ・病弱教育や自立活動に関する研修を実施し、各教師の専門性を高めることができている。 ・学部会や学年会で児童生徒の指導・支援に関する話し合いを継続的に行うことができている。 ・個別に行う保護者・担任の会において、学級から保護者に向けて個別の指導計画などの説明を行い、内容にご理解いただいた。	B	・取組の姿勢は見られる。児童生徒の教育に対する教育の専門性にばらつきが生じないよう、各教職員の研修や協議などに引き続き取り組んでいく必要がある。
⑤ 自立活動の目標や内容を明確に意識して指導できている。	9%	72%	13%	3%	3%	⑤ 自立活動の指導内容や目標が分かりやすく伝えられている。	70%	10%	0%	0%	20%				
⑥ 児童生徒一人一人の実態に応じた支援を組織的にしている。	31%	56%	3%	3%	6%	⑥ 子供の成長や自立に向けた支援が充実している。	80%	0%	0%	0%	20%				
3 ICT機器等を活用した情報教育の推進						3 ICT機器等を活用した情報教育の推進									
⑦ 授業でICT機器を効果的に活用できている。	9%	63%	22%	3%	3%	⑦ 授業でICT機器を活用した学びが行われている。	40%	20%	0%	0%	40%	B	・教職員は、授業におけるICT機器等の活用が進みつつある一方で、さらに効果的に活用する方法についての理解を深める必要がある。 ・保護者は「分からない」の回答が比較的多い。タブレット端末の自宅持ち帰りを行ってならず、学校のみでの活用とされていること、学校からICT機器等を活用した学習の状況の発信が十分でないことが理由として考えられる。	C	・ICT機器等を活用する視点では、学校だけではなく家庭においても活用が進むことを期待したい。保護者と学校が連携して推進するために、保護者との協力を具体化する必要がある。
⑧ 児童生徒の情報活用能力の向上を意識した授業を行っている。	6%	47%	34%	3%	9%	⑧ ICTを活用した学習が子供の学びに良い影響を与えている。	30%	30%	0%	0%	40%				
4 キャリア教育の充実						4 キャリア教育の充実									
⑨ キャリア教育の目的を理解し、授業や活動に反映できている。	9%	66%	16%	3%	6%	⑨ 学校が子供の将来を見据えたキャリア教育を行っている。	30%	40%	0%	0%	30%	B	・キャリア教育の取組については教職員、保護者共に一定の評価を得た。 ・キャリアパスポートの活用は教職員の活用と保護者への説明が十分とはいえない。児童生徒が目標を立てたり自分自身を振り返ったりする学習場面は設定しているが、児童生徒の意識が自分自身の目標に向かうような工夫が必要と思われる。	C	・児童生徒のアンケートでは、将来への夢や目標をもつ割合がまだ低い。最も大切な教育の目標に向けた取組であるため、引き続きキャリア教育が充実するよう取り組む必要がある。
⑩ キャリアパスポートを効果的に活用できている。	0%	47%	41%	3%	6%	⑩ キャリアパスポートなどを通して子供の成長が確認できている。	40%	10%	20%	0%	30%				
⑪ 児童生徒が将来の夢や希望をもてるよう支援できている。	6%	63%	22%	0%	9%	⑪ 学校と家庭が連携して、子供の夢や希望を育てている。	50%	30%	0%	10%	10%				
5 ワーク・ライフ・バランスの向上と働きやすい職場環境の醸成						5 ワーク・ライフ・バランスの向上と働きやすい職場環境の醸成									
⑫ 職場内で、アサーティブコミュニケーションができている。	6%	41%	44%	6%	3%							C	・職員間の関係構築が十分ではない。多くの職員が努力している状況にあるが、すべての職員が同じように取り組んでいく必要がある。 ・業務におけるICTの活用は進んできているが、転出入に係る文書、個別の教育支援計画、個別の指導計画など多くの文書作成業務があるため、さらに効率化を目指す必要がある。 ・フレックスタイムは活用頻度に差がある。	A	・フレックスタイムの利用など教職員の働き方改革を進めると共に、さらに教育の質の向上に結びつくような取組を希望する。
⑬ 業務のICT化や分担による効率化が進められている。	0%	59%	28%	3%	9%										
⑭ 職場全体でワーク・ライフ・バランスを意識した取組が行われている。	6%	56%	25%	3%	9%										

■評価基準■

- 【A】よく当てはまる
- 【B】当てはまる
- 【C】あまり当てはまらない
- 【D】全く当てはまらない
- 【E】分からない

■評価基準■

- 【A】よく当てはまる
- 【B】当てはまる
- 【C】あまり当てはまらない
- 【D】全く当てはまらない
- 【E】分からない

■評価基準■

- 【A】大変良い（80%以上）
- 【B】良い（79～50%）
- 【C】やや不十分（49～30%）
- 【D】不十分（20%以下）

■評価基準■

- 【A】大変良い（80%以上）
- 【B】良い（79～50%）
- 【C】やや不十分（49～30%）
- 【D】不十分（20%以下）